

第1回東京都認知症対策推進会議の議論のまとめ

1 「認知症高齢者を地域で支える東京会議」について

- (1) 説明（事務局）
- ・認知症の現状や「東京会議」の設置趣旨、到達点及び残された課題等について説明
- (2) 主な意見（特になし）

2 認知症対策の総合的な推進に向けて

- (1) 説明（事務局）
- ・認知症になっても認知症の人と家族が地域で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、当面の間、都民への普及啓発活動の継続、「面的」に支える仕組みづくりの具体化、症状に応じた医療支援体制の検討に取り組むことを説明
- (2) 主な意見
- まちづくり、ネットワーク構築について
- ・地域の様々なネットワークづくりにおいて、地域包括支援センターがコアとなることが期待されている。当会議では認知症の人を対象としたネットワーク構築について検討するものと思うが、ケアが必要な人の生活を支えるという大きな視点から是非検討を。
 - ・地域で安心して暮らせるまちづくりを考えるにあたっては、生活の拠点が自宅にある場合だけでなく、自宅を離れてグループホームに入居したような場合でも地域社会生活を継続・構築できるような展望をもつことが大切。
- 「介護」について
- ・介護をしている者にとっては、ケアマネージャーが要の存在。地域資源の有効活用については、身近なケアマネージャーの知識の向上も含めて考えていただきたい。
- 「医療」について
- ・医療に関しては、かかりつけ医だけでなく、精神科医や歯科医師との連携も含めて検討してほしい。
 - ・医師には、診断だけでなく家族に予後を説明する等、その後のフォローもしていただきたい。
 - ・医療に関する情報を関係者間で共有し、医療機関を有効活用することが大切。
- 介護と医療の連携について
- ・家族のフォローに関しては、医学的情報と生活支援的情報が一体となって提供されると効果的。ただ、全てをかかりつけ医が担うことは現実的には困難であるため、医師とその他の関係者が協働することが必要。

3 認知症実態調査の概要について

- (1) 説明（事務局）
- ・東京都認知症対策推進会議における議論の参考とするため、認知症高齢者生活実態調査、認知症専門医療機関実態調査、若年性認知症生活実態調査を実施する予定であることを説明
- (2) 主な意見
- について
- ・個人情報の取扱い等、調査の設計には十分な注意を払ってもらいたい。

4 今後の検討の進め方について

- (1) 専門部会の設置についての提案（議長・事務局）
- ・認知症対策を総合的に進めるにあたり、当面取り組むべき、地域における生活支援の仕組みづくり、認知症・身体症状双方の症状に応じた医療支援体制について検討するため、専門部会の設置を提案。
- (2) 専門部会の名称、設置期間、検討事項及び委員について決定
- 名称（設置期間）はそれぞれ「仕組み部会」（3ヵ年）「医療支援部会」（2ヵ年）とする。
- それぞれの検討事項は次のとおりとする。
- ア 仕組み部会
- ・「認知症生活支援モデル事業」の進行管理、検証
 - ・広域的対応を要する課題の検討
 - ・全都的に広めるための方策の検討 等
- イ 医療支援部会
- ・専門医療機関のリスト化、情報共有の方法
 - ・かかりつけ医と専門医・医療機関（身体疾患含む）認知症サポート医の活用策や連携のあり方
 - ・かかりつけ医認知症対応力向上研修の検証 等
- 委員のうち専門委員については、議長預かりとする。
- (3) 主な意見（特になし）